
マン・イン・ブルー (M・I・B)

のりまき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マン・イン・ブルー（M・I・B）

【Nコード】

N7054E

【作者名】

のりまき

【あらすじ】

人に触れるだけで過去を見れる男の話。

青年は幅の広い台の上に立っていた。二列に並ぶ人々の先頭で力なくうな垂れている。スーツで身を固めた彼は哀愁を漂わせていた。照らす朝日さえも、儚さをまとう。

突然鳴り響く音楽。迫りくる鉄の箱。朝のこの時間帯こそ、彼にとつて一番苦手なときだった。

次々と箱の扉から流れ出てくる人の波を、彼は扉の脇に立ち避けていた。ようやく波が止み、彼は急いではこの中へと飛び込もうとしたが、出遅れていた一人の男と肩がぶつかってしまった。

途端にはじけ飛ぶ脳の奥。青年の視界はただはこの中を映すだけにすぎず、脳裏には、淡い光を含んだ映像が浮かび出てきていた。それは、先に肩をぶつけた男の過去。次々と流れる写真のように、その男の彼女と思われる清楚な女性の笑顔たち。次に現れたのは真夜中にきらめくクリスマスツリー。その下で、彼は彼女にプレゼントを贈った。真っ赤なマフラーだ。微笑ましい光景の次に浮かんでくるのは、衝撃の闇。

青年はこの瞬間が一番苦手だった。

突然別れを告げた彼女の後姿を男はじっと見続けていた。それから男は彼女を忘れられず、毎夜枕に顔をうずくめては、彼女の笑顔を思い出していた。そして、一年後と思われるクリスマス。見覚えのあるマフラーを巻いている女性を見つけ、思わず声をかける。振り向いた顔は、彼女ではなかった。ポツリと謝ると、男は言葉に成らない嘆きに涙が溢れてきた。

青年は毎朝のように、軽く触れただけで人々の暗い過去が見えてしまうのであった。そのほとんどが別れである。

気付けば、箱の中は人々で埋め尽くされ、青年は押しつぶされそうになっていた。それと同時に、脳の奥がはじけ飛ぶ。次々と入り込む人々の暗い過去。大好きだった人との別れ、親友との別れ、友達の裏切り、大嫌いだと思っていた父との死別、親の離婚により姉との別れを悲しむ少年の過去まで見えてしまった。

そして、突如浮上してきたのは、見覚えのある過去。それはここ最近、何度か見たことのある過去だった。その過去の持ち主は、青年の目の前に立つ若い女性だ。

彼女には大好きなおばあさんがいた。赤ん坊の頃から大事にくれて、一緒に泣いたり、一緒に笑ったり。彼女の隣にいてくれたのは、いつもそのおばあさんだった。腰が悪く歩くのも大変で、それを心配した彼女は、学校の運動会や学芸会、合唱祭があっても、おばあさんに「来なくても大丈夫だよ」と笑って言い聞かせていた。それでも、かわいい孫を持つおばあさんは、こっそりと彼女に気付かれないように見に行っていた。だけど、彼女はそれを知っていた。知っていたけど、そのことは黙っておき、一生懸命おばあさんに行事の様子を説明するのだった。その時のしわくちやの笑顔が、彼女の記憶に鮮明に刻まれているようだった。それなのに、次第にモヤがかかり、その笑顔は見えなくなっていく。

何度も見ているこの過去に、青年は歯を食いしばり、無駄だとわかっていてもまぶたで目を塞いだ。

やはり、蘇ってくるのは彼女の泣き腫らした顔だった。目頭を押

さえ、赤らめた鼻の下で歯を食いしばっていた。その前には、静かに横たわるおばあさんの姿。何も特別なことはない。ただ、おばあさんさえいてくれれば、それで良かったのに。彼女の涙は止めどなく流れていた。

ようやく終わった映像に、青年は思わず鼻を嚙っていた。静かに目を開け、目の前にいる彼女を見てみる。すると、彼女はこちらを向いて睨みつけていた。気付けば、青年は彼女に手をつかまれ頭上へと持ち上げられている。ふと周りを見ると、誰もが青年を見ていた。

彼女に連れ出された青年は、鉄の箱から下ろされ台の上のベンチに座らされた。睨みつける女性の眼差しは、憎悪の念を宿していた。おばあさんとの死別を持つ彼女の顔から青年は視線を落とし、ポツリと呟いた。

「触れた感触が忘れられない……豊満な」

ただのチカンじゃねえか！

【マン・イン・“ピンク”】完

（後書き）

読んで下さいまして、ありがとうございます。
感想などありましたら、お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7054e/>

マン・イン・ブルー（M・I・B）

2010年12月17日02時21分発行